

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
レクリエーション理論 Theory of Recreation		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(特になし)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
レクリエーションアクティビティⅠ・Ⅱ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
菅野 清子	本館1階非常勤講師室	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
現代の日本社会は、ここ数年における技術の進歩や文化の発展にともない、多くの情報や物に溢れ、選択肢も増加傾向にある。一見何の心配もないように思えるが、一方で、生涯を有意義に過ごすことの出来ない人や、コミュニケーションを上手くとれない人もいる。そんな中で、レクリエーションの持つ意味はとても重要である。この授業では、レクリエーションの歴史や重要性などについて学習するとともに、支援者としての理解を深める				
授業の目標				
①レクリエーションの歴史とその背景について理解できるようにする。 ②レクリエーション支援者としてのコミュニケーションスキルやホスピタリティについて理解できるようにする。 ③レクリエーション援助法についての基本的スキルが実践できるようにする。 ④レクリエーションに関する組織について理解できるようにする。				
授業の方法				
講義形式の授業 グループワークが中心				
学習の成果 (学習成果)				
①レクリエーションとは何か、その必要性は何かなど、説明できる。 ②レクリエーション支援者としてプログラムを作成することができる。 ③対象者に応じたアセスメントプログラムを作成することができる。 ④レクリエーション関連の団体や活動などに貢献できる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス (授業の進め方、成績評価方法、レクリエーション関連の資格取得について)			
第2回目	現代社会における余暇生活 (ライフスタイルとレクリエーション)			
第3回目	レクリエーションの持つ意味とは (語源 イメージ 遊戯)			
第4回目	レクリエーション運動と歴史 (海外・日本・組織)			
第5回目	レクリエーションの意義 (生活者 支援者)			
第6回目	レクリエーション・インストラクターとしての役割① (レクリエーション支援の考え方)			

第7回目	レクリエーション・インストラクターとしての役割②（インストラクターに期待されるもの）
第8回目	レクリエーションの利用者と援助者①（支援の定義と重要性）
第9回目	レクリエーションの利用者と援助者②（個別化と集団化）
第10回目	レクリエーションと社会福祉（ノーマライゼーション・QOL・少子高齢社会・障がい者）
第11回目	地域とレクリエーション（村おこし・町おこし）
第12回目	レクリエーション事業（ニーズの追求 プログラム計画 アセスメント インフォームドコンセント A-PIEプロセス）
第13回目	レクリエーション事業（個々のアセスメントに基づいたプログラム）
第14回目	ホスピタリティの重要性（バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーション）
第15回目	レクリエーションの安全管理（事故・事件への対応）

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	・前向きに取り組んでいる。 ・グループワークに積極的に取り組んでいる。
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験	50%	語句穴埋め、選択式、記述式の試験を行い評価する。論述は根拠(エビデンス)に基づき自分の言葉で述べられていること。
発表内容（態度含む）		
その他	20%	毎回リアクションペーパーを配布 内容を評価 詳細はガイダンスで説明

教科書と参考図書

教科書・・・使用しない 必要に応じてプリント配布  
 参考図書・・・「レクリエーション支援の基礎」 「福祉レクリエーション総論」 「福祉レクリエーション援助の方法」 「福祉レクリエーション援助の実際」いずれも、公益財団法人 日本レクリエーション協会

履修上の留意点・ルール

レクリエーション支援者としての意識を持って、授業に臨むこと。  
 携帯電話、飲み物など、授業にふさわしくないものの持ち込みは厳禁